

古典A 竹取物語 帝の求婚① 教科書P.18～19

年 組 番 氏名

古文を現代語訳してみよう。古文は日本語だから、カンペ単語帳を見ながら考えれば、自力でできる。

カンペ単語帳	本文	現代語訳
<ul style="list-style-type: none"> 帝 → 天皇のことだが、「帝」のままでもよい にはかに＝急に 日を定めて＝日程を決めて 御狩り＝狩り 出で給うて＝お出かけになつて 入り給うて → 自分で考えてみて 見給ふ＝ご覧になる 光満ちて＝光り輝いて 清らして＝美しく ぬたる＝座っている ・あり＝いる これならむ＝これがかくや姫なら おぼす＝お思いになる 近く＝近くく 寄らせ給ふに＝お寄りになるよ 逃けて入る＝逃げて入ることする 袖を＝女の袖を しらく給くば＝お捕まえになったので 面＝顔 ・らだく＝おおひ 候くと＝いたけれど 初め＝初めに ご覧じつれば＝ご覧になっていたので たぐひなく＝またもなく めでたく＝すばらしく おぼえむせ給ひて＝お願ひになつて 許す＝選ぶ ・しとす＝くはらふ とて＝とつて ぬて＝連れて おぼしめせむ＝いらぬことかた しとるに＝しとるよ 	<p>帝、にはかに日を定めて、</p>	
	<p>御狩りに出で給つて、</p>	
	<p>かくや姫の家に入り給つて見給ふに、</p>	
	<p>光満ちて、清らしてぬたる人あり。</p>	
	<p>しれならむとおぼし、</p>	
	<p>近く寄らせ給ふに、</p>	
	<p>逃けて入る袖をしらく給くば、</p>	
	<p>面をらだきて候くと、</p>	(女は)
	<p>初めよく御覧じつれば、</p>	(帝は)
	<p>たぐひなくめでたくおぼえむせ給ひて、</p>	
	<p>「許せむとす。」と、</p>	
	<p>ぬしおぼしめせむとせむとすに、</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・奏す＝申し上げる *天皇に申し上げるをただけ使った語 	<p>かぐや姫細くて奏す、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・おのが＝私の ・生まれてはぐらば ＝申し生まれておのまじたなひば 	<p>「おのが身は、この國に生まれし 世に世に申使ひ給はぬ、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・使ひ給はぬ＝（召使として）お使ひいださ ぬのですが * 「いな」は上の語に給られる 	<p>ふしおしおせしまじかたぐや世に お。」と奏す。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ふし＝とてお ・おておはしまじかたぐや世にお ＝連れていかにいひつゝおしおし 	<p>世、 「なしかたおはぬ。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・なしか＝なむか ・おはらむ＝そなたにむかぬこと 	<p>なほおしおせしおはぬ。」と、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・なほ＝やはり ・おて＝連れて ・おはしまむらむ＝参るの ・とて＝とて 	<p>御殿を尋せ給らし、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・御殿＝殿（お供が居る天皇の乗り物） ・尋せ給らし＝近くにお尋せになる 	<p>このかぐや姫、おし殿になりぬ。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・おし＝おし ・影になりぬ＝見えなくなつてしまった ・はかなく＝あつた 	<p>はかなく、くたをうしおせし</p>	<p>(控せ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・くたをうし＝残念だ ・おほす＝お思ひになる ・けし＝ほんとうに ・ただ人＝普通の人 	<p>けし、ただ人にはおほすのけしと おほし、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・にはおほすのけし＝おほすのたなぬ *けし → 「過去」ではなす「詠嘆」 	<p>「おほす、御しおしお思ひ行かじ。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・おほす＝それなり ・御しおしお＝お供しして ・おて＝連れて ・行かじ＝行くまじ 	<p>おしのおかたわしはの給ひぬ。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・御かたち＝お姿 ・しはの給ひぬ＝しおなりいたせ ・それを思ひだし＝おぬしそれだけお思ひ 	<p>それを思ひだし思ひなぬ。」と仰せ いるれば、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・思ひなぬ＝思つ ・かたち＝姿 ・なりぬ＝なつた 	<p>かぐや姫、おしのかたわしになりぬ。</p>	

古文を現代語訳してみよう。古文は日本語だから、かんく井井語彙を覗きながら考えれば、自力でできる。

かんく井井語彙	本 文	現代語訳
<ul style="list-style-type: none"> なほ＝まほまほ ぬたぐ＝(かぐや姫を)おぼしめし おぼしめしぬたぐ＝おぼしめしぬたぐ せましめがたし＝抑えきれない かぐ＝このまじ 見せしる＝見せてくれた 	<p>帝、なほぬたぐおぼしめしぬたぐし</p>	
<ul style="list-style-type: none"> *「涅槃品」は翁の名前。訳をそのまほ を驚ひ絶ふ＝におれをおこしやる さて＝それで、それで つからまつる＝お仕えしている 百鬼の人々＝たくさんのお人だま あまじ＝おちなごの宴を いかめしう＝盛大に つからまつる＝してまじ上げる しじめて＝残して 帰の給はむ＝お帰りになる 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おぼしけれし＝おぼしめしなごたけれし しじめたる＝残した 心地してなる＝気持ちで 	<p>せましめがたし。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> かぐ＝このまじ 見せしる＝見せてくれた 	<p>かぐ見せしる涅槃品を驚ひ絶ふ。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> *「涅槃品」は翁の名前。訳をそのまほ を驚ひ絶ふ＝におれをおこしやる さて＝それで、それで つからまつる＝お仕えしている 百鬼の人々＝たくさんのお人だま あまじ＝おちなごの宴を いかめしう＝盛大に つからまつる＝してまじ上げる しじめて＝残して 帰の給はむ＝お帰りになる 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おぼしけれし＝おぼしめしなごたけれし しじめたる＝残した 心地してなる＝気持ちで 	<p>たごつからまつる百鬼の人々、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> つからまつる＝お仕えしている 百鬼の人々＝たくさんのお人だま あまじ＝おちなごの宴を いかめしう＝盛大に つからまつる＝してまじ上げる しじめて＝残して 帰の給はむ＝お帰りになる 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おぼしけれし＝おぼしめしなごたけれし しじめたる＝残した 心地してなる＝気持ちで 	<p>あまじいかめしうつからまつる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> あまじ＝おちなごの宴を いかめしう＝盛大に つからまつる＝してまじ上げる しじめて＝残して 帰の給はむ＝お帰りになる 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おぼしけれし＝おぼしめしなごたけれし しじめたる＝残した 心地してなる＝気持ちで 	<p>帝、かぐや姫をしじめて</p>	
<ul style="list-style-type: none"> つからまつる＝してまじ上げる しじめて＝残して 帰の給はむ＝お帰りになる 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おぼしけれし＝おぼしめしなごたけれし しじめたる＝残した 心地してなる＝気持ちで 	<p>帰の給はむしじま、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 飽かず＝不満で くちをし＝残念に おぼしけれし＝おぼしめしなごたけれし しじめたる＝残した 心地してなる＝気持ちで 	<p>飽かずくちをしおぼしけれし、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> おぼしけれし＝おぼしめしなごたけれし しじめたる＝残した 心地してなる＝気持ちで 	<p>魂をしじめたる心地してなる</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 心地してなる＝気持ちで *「なる」は訳をそのまほ 帰らせ給ひける＝お帰りになごた 奉りてのちし＝お奉りになごたあまじ 帰るまの＝帰るまの みゆき＝道行き *天皇のおまかりのし もの憂く思はえて＝おこころに思はれて 	<p>帰らせ給ひける。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 帰らせ給ひける＝お帰りになごた 奉りてのちし＝お奉りになごたあまじ 帰るまの＝帰るまの みゆき＝道行き *天皇のおまかりのし もの憂く思はえて＝おこころに思はれて 	<p>御慶に奉りてのちし、かぐや姫し、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> もの憂く思はえて＝おこころに思はれて 	<p>帰るまのみゆきもの憂く思はえて</p>	

<ul style="list-style-type: none"> • そむかして来る → 掛詞<small>かかじ</small> *二つの意味を含む ① (栞) 心の返って心が戻る ② (栞) そむいて留まる (かぐや姫) 	<p>そむかして来るかぐや姫ゆゑ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • かぐや姫ゆゑ = かぐや姫のせいで 	<p>御返の事、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 御返の事 = 1) 返事として • 種はら下しち = つる草の種<small>こぼ</small>の類々な家 	<p>種はら下にも年は経ぬる身の</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 年は経ぬる身の = 数年暮らしてまた私が • 何かはくを思ひ = じつじつとくを思ひたし思つてしよらか 	<p>何かは五のうてなをも思ひ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 五のうてな = 兼し<small>あ</small>い宮殿 • 御覽つて = 1) 覽<small>あ</small>になつて 	<p>これを若御覽して</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • じつじつ = じつじつ • 帰<small>かへ</small>り給<small>たま</small>はむ = お帰りになる 	<p>じつじつ帰<small>かへ</small>り給<small>たま</small>はむならむな</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • そらむな = 方回<small>かへ</small>むな • お思<small>おも</small>はる = お思<small>おも</small>ひになる 	<p>お思<small>おも</small>はる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 御心 = お心 • むらじ = むらじ 	<p>御心は、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 立ち帰<small>かへ</small>るくくち = 帰<small>かへ</small>れそく<small>く</small>ち 	<p>むらじ立ち帰<small>かへ</small>るくくち</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • お思<small>おも</small>はれむら = お思<small>おも</small>ひになれなかつた • くれむ = くれむ 	<p>お思<small>おも</small>はれむらくれむ、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • むらじ = かじ<small>く</small>つ 	<p>むらじ、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 夜を明かし給<small>たま</small>はむ = 夜をお明かしになる • くちにあらねば = わけにもいかなないので 	<p>夜を明かし給<small>たま</small>はむくれにあらねば、</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 帰<small>かへ</small>らせ給<small>たま</small>ひぬ = お帰<small>かへ</small>りになつた 	<p>帰<small>かへ</small>らせ給<small>たま</small>ひぬ。</p>	